

NHKスペシャル

シリーズ 激動の世界

国境を越えて拡散する過激なテロ——。各国で台頭する排他的なナショナリズム——。そして、力を背景に現状変更を試みる国々——。大きな時代の転換期を迎え、未知の混沌に直面する“激動の世界”。その先に、一体何があるのか。秩序が崩壊する現場のルポと、大越健介キャスターによる世界の“知の巨人”へのインタビューを通して、3回シリーズで読み解いていく。

【第1回】テロと難民～EU共同体の分断～

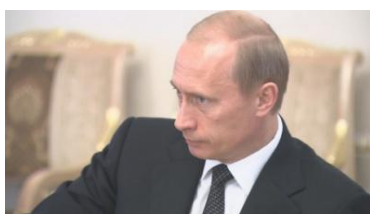
1月9日(土) 午後9:10～9:59 (総合テレビ)

第1回は、パリ同時テロ事件の衝撃に揺れるヨーロッパからの最新報告。国境を無くし、人や金の移動を自由にすることで、平和で豊かな共同体を作ろうとしてきたEU＝ヨーロッパ連合。しかし今、とどまる気配の無い難民の流入とテロの脅威を前に、国境審査を強化するなど、“国境を閉じる”動きが強まっている。この混乱は世界の秩序全体にどのような影響を与えていくのか。激動の震源地から、ボーダレス化を進めたEUモデルの挫折と混乱の意味を読み解いていく。



【第2回】大国復活の野望～ロシア・プーチンの賭け～

1月10日(日) 午後9:15～10:04 (総合テレビ)



第2回は、これまでの欧米協調路線から決別し、再び自らの勢力圏の回復に国家の命運を懸けようとしているロシア。東西冷戦後、欧米と価値観を共有すれば“対等な仲間”として受け入れられると信じ、ロシアはNATO＝北大西洋条約機構の東方拡大をも耐え忍んできた。しかし、2年前のウクライナでの政変をきっかけに、国際社会の強い反発を押し切って南部のクリミアを併合。今なお、プーチン大統領の強気な姿勢は崩れていない。パリ同時テロ事件後、対テロ作戦では協調姿勢を示しているが、ロシアとアメリカが抱くシリアの将来ビジョンは根本的に対立したままだ。番組では、プーチン大統領の意を受ける形で対外工作に動くある人物に密着。欧米と激しい攻防を続けるロシアの思惑、その新たな世界観を浮かび上がらせる。

【第3回】 超大国なき世界～アメリカの苦悩と模索～

1月16日(土) 午後9:00～9:49 (総合テレビ)

第3回は、冷戦崩壊後、「世界の警察官」として国際秩序への関与を続けてきたアメリカ。“テロとの戦い”の出口が見えない中、あくまで“地上軍”を派遣せず、自らの犠牲を最小限にとどめる方針を貫いている。しかし、空爆と特殊部隊の派遣を続けるシリアでは、現地の反政府勢力を育成してISとの地上戦を担わせる計画が難航。逆に、ISへの武器流出や、地域大国を目指すロシアの介入を招いてしまった。さらに、SNS上で大量に拡散する過激思想によって、ISに共鳴する若者が欧米各地に増えている現実も、



パリの同時テロで明らかになった。これに対しアメリカは、GoogleなどシリコンバレーのIT企業の協力を得て立ち上げた「デジタル外交」で対抗しようとしている。かつての「世界の警察官」から、国際秩序への関与の仕方を大きく転換させていくアメリカ。対IS戦略の模索と苦悩を通して、今後のアメリカと世界の行方を展望する。

【プロローグ】 大予測！2016世界はこうなる

1月1日(金) 午後9:00～9:58 (総合テレビ)

国際社会は今、前例のない“激動の時代”を迎えようとしている。パリ同時テロなど、世界に拡散を続けるイスラム過激派ISの脅威。ヨーロッパでは流入する膨大な移民の問題を巡ってEUは分裂の危機にひんしている。南シナ海などの覇権を前面に打ち出し始めた中国や武力でクリミア併合に踏み切ったロシアなど、既存の国際秩序を顧みない国々が台頭し、世界のパワーバランスは大きく揺らぎ始めている。日本は複雑化する「国際社会の座標軸」をどう見極め、どのような一歩を踏み出していけばいいのか。世界各地の現場に大越キャスターが赴き、最前線の実態を取材。スタジオに招いた豪華なゲスト陣と共に、2016年の世界の行方と私たちへの影響について展望する。

※タイトルはすべて仮題